

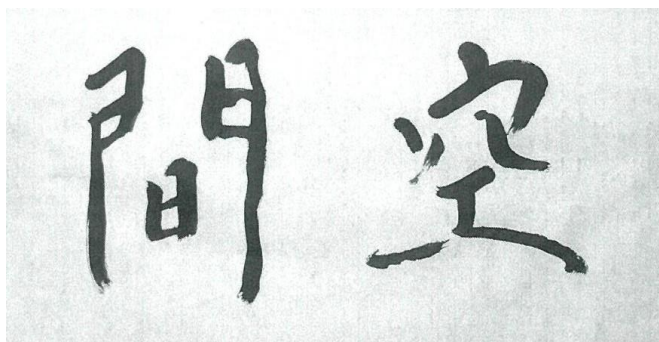
迷いの世を堂々と生きる

雲泉寺住職 神田恭真

人は迷いの中に生きています。この世に生まれ、老い、病気になる、死ぬ。仏の教えを説いたお釈迦様は迷いを自覚され、怒りや恨み憎しみといった苦しみもあるこの世をどう生きればよいのか悩んで厳しい修行をしました。そしてお釈迦様は迷いの世を堂々と生きるには、自分を整えなければならぬことに気づきました。整えるとは掃除修行することです。人は目の前に見えた物すべてが頭の中に入ります。掃除をすることで心が落ち着いて、身の回りの物体も輝いて良い風が入り、訪ねてくる人も気持ちが良いになります。禅道場で掃除を大切な修行にしているのは同じ理由です。

世の中には色々な人がいて、同じように色々な物があることを考えなければなりません。今は捨てる、売るといった選択肢が多いですが、譲るといふ選択も多いものです。大切なもの、手放してよいもの、ちよつと保留した方がいいもの、掃除は迷いを捉えることができます。禅の言葉に「放下著(ほうげじやく)」があり

ます。心配事を放り投げて楽になりなさいと言う意味です。物を捨てる断捨離が流行るのは放下著の効果です。しかし、物も人と同じで衰えていきますが、衰える味わいもあります。物だけでなく自分の考え事も、捨て過ぎず、捨てな過ぎず、よく管理して長く使っていきたいです。



掃除は迷いを管理します。身の回りを整えて空間を作ること、その空間は新しく活き活きとしてきます。空間を作って、迷いの世を堂々と生きていきたいですね。

▼住職より

恭真は本年(令和三年)十月に晋山結制式(住職になるための一世一代の大事事)を修行し、雲泉寺二十九世の法灯を嗣ぐ。コロナ禍で遠方寺院は呼ばず近隣寺院五十名程で規模を縮小し行われる予定。この法要を掌る西堂というお役は村上市大場沢・普濟寺住職角一覚隆老師で、新潟市沢海・大栄寺修行道場の後堂(修行僧を指導するお役)を務めている。もともとこの儀式は「制中」という九十日間の日程を設け、集まった寺院でその間修行を続けることが定められている。その期間中の第一座(首座・修行者の筆頭)は新発田市五十公野・白蓮寺徒弟関根康揮師が務める。現在も大本山永平寺で修行中であり今年三年目に入る。ちなみに恭真はこの首座を四国愛媛随応寺僧堂修行中に檜崎通元老師のもとで務めている。私たちが僧侶となるには、得度、立身(首座)、嗣法を経て、この大事事を修行して漸く一人前の住職(大和尚)となることができる。お檀家の皆様方にとりましてもこの儀式に巡り合うことは一生に一度あるかないかです。無事円成を祈ります。

梅花だより

曹洞宗梅花流全国奉詠大会は去年(北海道)、今年(長野)とコロナ禍で中止となりました。来年は創立七十周年の記念大会です。無事開催されることを祈ります。

お唱えを聞いて見ましよう。下のQRコードをスマートフォンで読み取ってください。



第十七教区護持会研修旅行
大本山總持寺祖院参拝と
輪島・和倉温泉の旅

期日

十月二十六日～二十八日

(二泊三日)

旅費 六万二千元

人数 六十名

申込金 一万円(旅費充当)

×切 八月末日

石川県能登にある大本山總持寺祖院は今年開創七百年を迎えます。また平成十九年の能登半島地震で被災した伽藍の復興工事が完了し、落慶法要等の記念諸行事が開催されます。この勝縁に是非ともご参加ください。